

日吉大社

日吉大社には、7つの大社と33の小社の合計40の神社がある。古事記には、比叡山東麓の八王子山の山頂近くの岩に大山咋神が宿ると記されているのが最初の記録である。その後、多くの神々が祀られるようになり、日本有数の神社群となった。

異種混交

比叡山では何世紀もの間、仏教と神道が融合した宗教が行われてきた。日吉大社は、788年に創建された天台宗の総本山である延暦寺と長い関わりを持っている。日吉大社の社殿は次第に延暦寺の宗教施設の一部となり、1868年まで延暦寺の宗教施設として存続した。

1571年、織田信長（1534-1582）が日吉大社を含む伽藍をすべて焼き払うまで、延暦寺は日本で最大かつ最も影響力のある仏教施設の一つであった。信長の後継者である豊臣秀吉（1537-1598）は、主要な7つの神社の再建を支援し、1601年までにすべての神社を完成させた。

山王一実神道

火災で再建しなければならなかったのは、日吉大社の建物だけではなく、神社の記録はすべて失われ、祭祀を覚えている神官も一人しか残っていなかった。

火災後、この神社は天海僧正（1536-1643）によって創始された山王一実神道と密接な関係を持つようになった。天海は、1571年に焼失した延暦寺を再建し、徳川家康（1543-1616）の埋葬と神葬のために山王一実を使用したのである。日吉大社の東照宮は、家康公を祀る壮大な日光東照宮の原型となった。

現在、日吉大社は全国に約4,000社ある神社の総本社となっている。

現在の日吉大社

現在の日吉大社は、その配置や主祭神の序列、山王祭などの儀式に至るまで、19世紀後半に再編成されたものである。1868年の神仏分離令により、全国の神社から仏具が撤去された。日吉大社では、1868年4月1日に仏像、鐘、経巻など1,000点余りが焼失している。

仏教からの分離は、日吉大社の神々の序列にも変化をもたらした。神仏習合の時代には、神道の神は仏教の仏の化身と信じられており、仏教的な側面から神々の配置や改装を決めることが多かった。日吉大社では、神仏分離令が出された後、七柱の主祭神のうちの四柱が移され、それまでの仏

教から独立した新しい神格体型が形成された。この神々の再編成は、山王祭を再構築することにもなった。